

議事録

-令和7年度 第1回 住民分科会-

日時：令和7年6月30日（月）13：30～15：00

場所：富士見町役場 202会議室

1. これまでの経過

2. 本日の議題

（1）断熱ワークショップ開催内容

（2）今後の予定

3. その他



経過

○住民分科会フラグシッププロジェクトの設定

昨年度富士見町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定。

住民分科会では「断熱性能の高い住宅・建築物の導入促進の実証プロジェクト」をフラグシッププロジェクトとして掲げ、富士見町の特徴である冬の寒さに焦点を当て、住宅の断熱性能の向上に取り組むことで冬は暖かく、夏は涼しい住環境が電気代や灯油代の削減につながることをPRしていく。

令和7年度は断熱改修に焦点を当て、ステップ1のとおりホームセンター等で購入できる資材による断熱DIYワークショップを建築事業者さんの協力を得て開催し、住民の皆さまに住宅の断熱改修について関心を寄せてもらうのが目標

○上田地域DIY断熱改修ワークショップの事例紹介（別紙資料）

断熱ワークショップ開催にあたり、他地域の事例として上田地域振興局が実施したワークショップに参加した西議員より資料提供があった。

上田地域振興局では令和5年度、令和6年度とワークショップを開催。

経過

上田市民エネルギーに事業委託し講演とワークショップの2部制での開催。

ワークショップではホームセンターで購入できる「内窓断熱キット」を使用し、参加者で合同庁舎会議室に内窓を設置する内容。WS時間はおよそ2時間、完成できなかった窓は工務店や職員等で仕上げた。

参加者アンケートでも満足度が高く、新聞など5つの媒体から取材あり。会議のない日であれば現地の視察も可能とのこと。

○断熱ワークショップ会場候補の下見報告

同様のワークショップを開催すると仮定して、まず会場が決まらなないとコスト試算ができないのもあり、事前に候補となりそうな施設の下見した。

- ・塚平公民館 ・AiAi
- ・町民センター ・コミプラ ・役場庁舎

公共施設は窓が大きく内窓断熱キットの規格外で、実施できそうな施設が見つからない状況。



経過

塚平公民館



経過

AiAi



経過

・町民センター



・コミプラ、庁舎



どの窓も錠のレバーが大きく
内窓フレームに干渉してしまう



経過

(1) 断熱ワークショップ

○上田市民エネルギー藤川代表 講演会

中島副委員長からのご提案で、ワークショップ開催前に上田のWSを運営した上田市民エネルギーの藤川さんに断熱WSの事例紹介や効果などお話をしていただいていたということ、藤川さんに打診したところご了承いただいている。

住民分科会主催として開催し、講演会の参加対象は住民分科会のメンバーだけでなく、公民館を所有する各集落の区長さんや断熱改修に興味のある一般の方にも広報し、断熱DIYの後押しになるような公開型の講座にしたい。

8月～9月を予定 内容：断熱ワークショップ事例紹介や効果など



議事録

(1) 断熱ワークショップ

●内容（案）

内窓DIY断熱改修

●会場

《条件》 改修等の予定がない・引き違い窓・高さ180mm×幅180mm以内

クレセント錠の持ち手部分の最突端から窓枠幅が30mm以上

- ・小中学校、保育園も可能性があるか確認してはどうか。
- ・2m以上の窓にも対応する内窓キットがネットで販売している。
- ・会場が見つからない場合、家庭サイズの窓枠を用意して実施を検討。

●講師

- ・DIYワークショップの講師実績のある事業者について情報なし。

町内事業者に依頼できそうか探りつつ、上田地域のワークショップで講師を務めたクボケイさんへの依頼も候補に入れる。

- ・ワークショップ講師は、DIYワークショップの実績がある建築事業者や一般のDIYのプロと呼ばれる人の方が良い。



議事六

(1) 断熱ワークショップ

●参加対象・定員

- ・分科会メンバー
- ・町内建築事業者
- ・断熱改修に興味のある方

●コスト

- ・材料費（内窓キット）
- ・講師謝礼、交通費

●広報

- ・町HP、有線（LINE）、広報ふじみ
- ・商工会から建築事業者へ情報展開
- ・新聞



議事録

(2) 今後の予定

本日 第1回住民分科会

8～9月 上田市民エネルギー藤川代表講演会

地球温暖化対策推進委員会

1月頃 第2回住民分科会

1～2月頃 住民参加型断熱ワークショップ開催

2～3月頃 地球温暖化対策推進委員会



その他

○原村 断熱改修ワークショップ 8/6,8/7（両日同じ内容）

○提案したいことなど

- ・町全体のCO2削減のなかで住民ができる範囲は限られているから、普段の生活の中でエコにつながることを発信し、関心を持ってもらう進め方について考えていく必要がある。

